

ドイツのこといろいろ（通訳の方から伺った話をまとめたもの）

- ・ フランクフルト市当局は、町の夜の人口を確保して安全な町を造ろうとしているがベルリンと同じ理由で市民は、郊外の持ち家を求める傾向が強い。ドイツ人の住居の平均面積は、40㎡/人で80%の人が持ち家を望んでいる。
- ・ 平均賃金は、2771EUR/月（約40万円）、年収ベースでは13倍程度になるそうで480万円程度。  
ただし、職業によって賃金格差が激しく平均値を求めることにどれほどの意味があるか疑問とのこと。
- ・ ドイツに住む日本人（通訳）の感覚的なマルクの価値は、1EUR（3月3日レートで137円）約200円位の感じだそうである。為替レートよりも価値が高い。しかし、我々の感じでは物価が高く感じた（尤も、ホテルやメッセ会場における飲食料金で感じる物価なので札幌のホテルやお台場のメッセ会場との比較が正しいのかもしれない）。
- ・ 既存住宅は3,900万棟（内賃貸物件2,000万棟）、新築改築を併せて年間29万戸の工事量である。  
（年間の新築戸数が、2,000棟との話を聞いたことがあるが正誤不明）
- ・ ~holf（~ホーフ）とは、町の中に密集して建てられた5~6階建てで中庭付きのアパートの呼称である。  
以前は、風通しの良い道路側の部屋に人気があったが最近騒音などの理由で裏側の部屋が見直されている。
- ・ 石油製品の値段と環境税  
軽油：1.12EUR/リットル（約157円）  
スーパー（ハイオク）：1.3EUR/リットル（約182円）（何れも140円/EUR換算）  
ガソリンスタンドによって多少違うがいずれにしても非常に高い。このガソリンの税金の中に15セント（約21円）の環境税が附加されている。自動車が環境に負荷を与えていることから課せられた税金であるがその一部は年金財政に回っている。この効果として、環境負荷減少 → 年金財政に余裕 → 企業の年金負担減少 → 雇用の増加 → 景気刺激の循環を狙っているとのこと。このような事情もあって環境税附加について国民や経済界から大きな反対はなかったそうである。  
政府・行政の国民への説明・説得・啓蒙が非常にしっかりしていることが窺える。合理的な思考が出来る成熟した国民とレベルの高い民主主義が根付いていると考えるのは私だけでしょうか。
- ・ CO2排出削減目標  
ドイツは、京都議定書を批准している。そしてCO2の排出削減目標（90年比2020年で22%減）は、現時点でほぼクリアしている。2020年までに建設後30年を経過した原子力発電を止める。これらの事情から更にCO2削減を進めている。パッシブハウスの発想もこの目標達成を大前提としたプロジェクト？

## あとがき

フランクフルトから帰国の途に着く3月28日（火）の夕方まで、実質5日間で作る時間をギリギリまで研修のために使い切る本当に有意義な研修だった。研修報告からは割愛したが、DIYショップの見学、フランクフルトの都市計画やその変遷について、またユダヤ人居留区や古い教会の見学なども織り込まれていた。途中、団体旅行に付き物の煩わしい出来事もほとんど無く、良く規律のとれた旅行だった。ご一行の皆様と添乗員の池田さん心から感謝申し上げる。しかし、それだけでは面白味が無いので最後に魔の26日（日）の事件について触れたい。

その日は、朝フランクフルトに飛び立つ日で、トランクの紛失や忘れ物、雪で飛行機が遅れたり、空港からのバスの運転手が駐車場の券を紛失して駐車場から出られなくなったりなど小事件が4件ほどあった。極め付きは、夜ホテルで起きた第五の事件だった。夕食から戻った吉田さんに、向かいの部屋の方が英語でヘルプミーと叫んでドアを叩いた。原因は不明だが、その部屋のスプリンクラーから放水されて瞬間のうちに、吉田、岡本、神谷、宮崎、宇美の各氏の部屋が氷害に見舞われ部屋を移る羽目に陥った。消防車が来て大騒ぎとなった。岡本さんは大いに怒り落とし前をつけると息巻いたが、フルーツの盛り合わせ一皿で萎えてしまったのは残念だった！

なお、一時、騒ぎの源の人は中国人だと噂が広がったが日本人のビジネスマンだった。元へ。今回の研修は升元さんのセッティングが秀逸だった。特にフランクフルトのエネルギー局の研修は貴重だった。改めて感謝し報告を終える。



水の後始末作業中の消防士